

**授業概要**

本演習は、学生各人が3年次の専門演習で設定した研究テーマに関する文献や資料（史料）の収集とそれらの読み込み作業を通じて卒業論文の骨格を作り上げるとともに、内容の肉付けを進めながら論文を完成させることを目的とする。演習では各自に研究報告を行ってもらい、受講者全員とのディスカッションにより、卒業論文の内容を練り上げていくこととする。

**授業計画**

第 1 回	春期の進め方の説明	第 16 回	秋期の進め方の説明
第 2 回	研究報告と質疑応答①	第 17 回	研究報告と質疑応答①
第 3 回	研究報告と質疑応答②	第 18 回	研究報告と質疑応答②
第 4 回	研究報告と質疑応答③	第 19 回	研究報告と質疑応答③
第 5 回	研究報告と質疑応答④	第 20 回	研究報告と質疑応答④
第 6 回	研究報告と質疑応答⑤	第 21 回	研究報告と質疑応答⑤
第 7 回	研究報告と質疑応答⑥	第 22 回	研究報告と質疑応答⑥
第 8 回	研究報告と質疑応答⑦	第 23 回	研究報告と質疑応答⑦
第 9 回	研究報告と質疑応答⑧	第 24 回	研究報告と質疑応答⑧
第 10 回	研究報告と質疑応答⑨	第 25 回	研究報告と質疑応答⑨
第 11 回	研究報告と質疑応答⑩	第 26 回	研究報告と質疑応答⑩
第 12 回	研究報告と質疑応答⑪	第 27 回	研究報告と質疑応答⑪
第 13 回	研究報告と質疑応答⑫	第 28 回	研究報告と質疑応答⑫
第 14 回	春期研究報告の全体的な総括	第 29 回	卒業論文提出前の最終確認①
第 15 回	今後の論文作成準備について	第 30 回	卒業論文提出前の最終確認②

**到達目標**

- ① 各自が設定したテーマに関する文献や資料（史料）を収集できる力を身につける。
- ② 卒業論文で何を解明するのかという問題意識を明確化する。
- ③ 自分なりの結論を論理的に導き出せるようにする。

**履修上の注意**

春期と秋期にそれぞれ研究報告を行うことが単位付与の条件となる。

**予習・復習**

研究報告の際にはレジュメを準備する。

**評価方法**

授業に対する姿勢（研究報告の内容と質疑応答への参加）50%、卒業論文 50%

**テキスト**

使用しない。

## 授業概要

本「卒業論文又は卒業研究」は、専門演習におけるテキストの輪読と資料の批判的な吟味とを通して得られた知識と技能とを土台にして、近世大西洋奴隷制プランテーション社会の様々な諸相のうち、各自が得られた問題意識を出発点として可能な限り調査を進め、その成果を文章化しプレゼンテーションしていただきます。その狙いは、自身の意見や知識のあいまいさに対峙し、他の受講者からの意見・質問・批判に真摯に向き合い、また新たな問題を発見しそれに立ち向かうことを通して、知識の拡充はもとより、常識ある社会人としての責任ある振る舞いやコミュニケーション能力を得ることにあります。

## 授業計画

第1回	授業概要の説明	第16回	卒業論文・研究のまとめ方
第2回	卒論・卒業研究の進め方① 文献調査	第17回	学生のプレゼンテーション⑥
第3回	卒論・卒業研究の進め方② データ作成	第18回	学生のプレゼンテーション⑦
第4回	卒論・卒業研究の進め方③ ノート作成	第19回	学生のプレゼンテーション⑧
第5回	卒業論文の書き方① 卒論の目的	第20回	学生のプレゼンテーション⑨
第6回	卒業論文の書き方② 卒論の構成	第21回	学生のプレゼンテーション⑩
第7回	卒業論文の書き方③ 注釈の目的	第22回	課題の提示と指導：論文題目の決定
第8回	卒業論文の書き方④ 注釈の作成方法	第23回	各自成果の中間プレゼンテーション
第9回	各自テーマと研究目的の開示	第24回	学生のプレゼンテーション⑪
第10回	学生のプレゼンテーション①	第25回	学生のプレゼンテーション⑫
第11回	学生のプレゼンテーション②	第26回	学生のプレゼンテーション⑬
第12回	学生のプレゼンテーション③	第27回	学生のプレゼンテーション⑭
第13回	学生のプレゼンテーション④	第28回	学生のプレゼンテーション⑮
第14回	学生のプレゼンテーション⑤	第29回	最終指導と総評
第15回	春期のまとめと各自テーマの開示	第30回	各自成果の最終プレゼンテーション
		第31回	口頭試問

## 到達目標

本演習の到達目標は、専門演習で得た近世大西洋奴隷制についての知識を軸に各自の問題意識を明確にし、入手可能な文献・資料の読み込みを通して得られた知見をレジュメにまとめ、皆の前で開示し建設的な批判を受け、新たな課題発見に繋げるというサイクルを経験し、知的にも人間的にも成長し広い教養と専門知識とを備えた職業人を養成することにあります。

## 履修上の注意

各自のプレゼンテーションと他の受講者のプレゼンテーションについての真摯な質問・批評を通して、自分の知的な力を向上させると同時に、同じ分野を学ぶ者同士の連帯感とを獲得することが、この授業の主眼となります。卒業論文・卒業研究の演習は参加者全員で作上げるものなので、毎回の授業に積極的に参加し発言して下さい。また無断欠席は厳禁とします。最上級生としてのプライドある振る舞いを強く求めます。

## 予習・復習

この演習における事前事後学習は、まず各自のプレゼンテーションの準備、次に授業で受けた様々な質問・意見・批判を吟味し、新たな課題発見を得て、さらにより高いステージのプレゼンテーションづくりに向かう、という言わばらせん状のサイクルを構成します。

## 評価方法

プレゼンテーションの内容や事前準備の周到さ、他の受講者からの批判・質問への真摯な対応態度、他の受講生のプレゼンテーションへの建設的な質問・批判そしてそこから学ぼうとする姿勢、そのほか授業における質問・発言などの積極的な参加の姿勢、口頭試問における真摯な受け答え、を総合して評価します。

## テキスト

使いません。各自の必要に応じて参考文献や資料は、随時紹介または配布いたします。

**授業概要**

卒業論文は、4年間の学びの集大成として存在する。どのような卒業論文を書いて大学を卒業するのか、後悔せずに卒業するために、授業担当者は受講者と相談を密にしながらサポートしていく。そのことを各人が意識してこの授業にのぞんでほしい。相談を随時行いながら適宜発表を行い、個人に応じた指導をしていくつもりである。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	夏期休暇中の報告
第 2 回	卒業論文構想報告①	第 17 回	卒業論文中間報告①
第 3 回	卒業論文構想報告②	第 18 回	卒業論文中間報告②
第 4 回	卒業論文構想報告③	第 19 回	卒業論文中間報告③
第 5 回	卒業論文構想報告④	第 20 回	卒業論文中間報告④
第 6 回	卒業論文構想報告⑤	第 21 回	卒業論文中間報告⑤
第 7 回	卒業論文構想報告⑥	第 22 回	卒業論文中間報告⑥
第 8 回	先行研究の調査、報告①	第 23 回	卒業論文執筆①
第 9 回	先行研究の調査、報告②	第 24 回	卒業論文執筆②
第 10 回	先行研究の調査、報告③	第 25 回	卒業論文執筆③
第 11 回	先行研究の調査、報告④	第 26 回	卒業論文執筆④
第 12 回	先行研究の調査、報告⑤	第 27 回	卒業論文執筆⑤
第 13 回	先行研究の調査、報告⑥	第 28 回	卒業論文執筆⑥
第 14 回	研究の目的と方法のまとめ	第 29 回	要旨執筆①
第 15 回	夏期休暇の計画	第 30 回	要旨執筆②
		第 31 回	口頭試問

**到達目標**

日本近代文学を専門に学んだと自信をもっていえるような卒業論文を書き上げる。

**履修上の注意**

随時、個別相談を行う。

また状況によっては、全体もしくはグループで学外に文献調査、実地調査を行う。

**予習・復習**

予習：この授業は毎回の授業で完結するものではないため、卒業論文に必要な調査、執筆などすべての作業が予習となる。

復習：この授業は毎回の授業で完結するものではないため、卒業論文に必要な調査、執筆などすべての作業が復習となる。

**評価方法**

基本的には提出された卒業論文で評価するが、結果だけでなく、過程も評価する。

**テキスト**

それぞれが扱う対象としたものがテキストになる。

## 授業概要

大学での研究の総括として、英語学等の専門分野において各自が関心を持つ主題について考察し、その主題について自分の意見をまとめ、卒業論文を書いていただく。まず、テーマの選び方から、資料収集の仕方、文章の書き方、注、参考文献の書き方に至るまで論文の書き方を指導する。その指導を受けながら、受講生は各自の卒業論文の準備を進めることになるが、適宜、研究経過を報告あるいは発表し、そこで得られたフィードバックを論文の内容に活かし、最終的に論文を完成する。

## 授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	ゼミ生による中間発表(1)
第 2 回	卒業論文とは？- レポートの違いなど	第 17 回	ゼミ生による中間発表(2)
第 3 回	テーマの選び方	第 18 回	今後の論文作成の計画の作成
第 4 回	論文の主題の決め方	第 19 回	春学期の論文の書き方の復習
第 5 回	参考文献の選び方、読み方	第 20 回	注の書き方：説明
第 6 回	論文の書き方：スケッチ、アウトラインから執筆、完成まで	第 21 回	注の書き方：実践
第 7 回	資料の種類	第 22 回	卒業論文の題目のつけ方
第 8 回	資料の収集の仕方	第 23 回	参考文献の書き方：説明
第 9 回	ゼミ生によるテーマの発表	第 24 回	参考文献の書き方：実践
第 10 回	論文の構成と論旨の展開の仕方	第 25 回	ゼミ生による経過報告
第 11 回	引用の仕方	第 26 回	論文の書き方の指導：実践編
第 12 回	挿入、強調など注意すべきこと	第 27 回	要旨の書き方
第 13 回	基本的な文章の書き方	第 28 回	ゼミ生による卒業論文発表(1)
第 14 回	論文における文章の書き方	第 29 回	ゼミ生による卒業論文発表(2)
第 15 回	ゼミ生による経過報告、参考文献リストの提出	第 30 回	総括

\*授業の内容、進度は、ゼミ生の卒業論文の準備の進捗度、ゼミ生の人数等によって若干変更されることがある。

## 到達目標

自分の力で、英語学等の専門分野において各自が関心を持つ主題を選び、その主題について客観的に考察して意見をまとめ、最終的に論文の書き方に従って卒業論文を書き上げることがこの科目の目標である。

## 履修上の注意

卒業論文を完成するために、受け身の姿勢で臨まずに、次に何をすべきかみずから考えて計画的に論文の準備を行うこと。

## 予習・復習

授業の内容を理解するために、事前に与えられたハンドアウトを読んで、次の授業の全体像をつかんでおくこと。復習としては、授業で学んだことをいかに各自の論文の準備に応用できるかについて考え、実行に移すこと。

## 評価方法

完成した卒業論文の内容(80%)を主として、その他、卒業論文への取り組み方(10%)、授業での発表(10%)を加えて総合的に判断する。

## テキスト

特になし。ハンドアウトを配布する。適宜、参考書を紹介する。



## 授業概要

本授業ではまず、皆さん自身の4年間の大学での研究の成果を示す卒業論文を書くために必要なことを学び、実際に卒業を論文に着手します。特に、論文の組み立て方、論文を書くために知っておかなければならないことばのルールを学びます。すなわち、基礎編として、論文と普通のことばづかいの違いや、記号(、。「 」? “ ” :;)の使い方など、論文を書くための基本的なルールを確認します。論文編では論文の基本的な構成とその作り方を学びます。その後、各自のテーマに即して、「序論」「本論」「結び」の3つの順に詳しく書き方を練習します。

## 授業計画

第 1 回	論文を書くための基本的なルール	第 16 回	本論の論拠提示
第 2 回	論文とは何か	第 17 回	結論提示:自分の一番言いたい意見
第 3 回	論文の構成	第 18 回	行動提示:分かりやすい論に整える
第 4 回	構成の作り方	第 19 回	論の展開:説得力ある本論を仕上げる
第 5 回	本論のまとめ方	第 20 回	第 2 草稿を書いてみる
第 6 回	3種類の文:事実、意見、行動を述べる文	第 21 回	結びの役割
第 7 回	アウトラインを書いてみよう	第 22 回	全体のまとめ
第 8 回	論文のモデル	第 23 回	評価:論文を振り返って評価を手加える
第 9 回	序論の役割	第 24 回	展望提示
第 10 回	背景説明	第 25 回	第 3 草稿を書いてみる
第 11 回	問題提起	第 26 回	資料に関する表現
第 12 回	方向付け	第 27 回	調査・実験に関する表現
第 13 回	第一草稿を書いてみる	第 28 回	資料展開の技術
第 14 回	論文の各節の概要で何を書くか予告	第 29 回	対比する、推論を示す、結論を補強する
第 15 回	本論の役割	第 30 回	論文の付属要素(表題・要旨・目次、他)
第 16 回	まとめの筆記試験	第 31 回	最終稿を書いてみる。まとめの筆記試験

## 到達目標

イントロ・パラグラフとボディー・パラグラフおよびコンクルーディング・パラグラフを、序論、本論を展開して、結論部分までを構成し、結論として別の言葉で主題文を言い換えたり、全体を要約したりできるようになる。さらに提案や展望などの書き方を学び実践する。

## 履修上の注意

授業に毎回出席し、論文の書き方を徐々に学んでゆくように心がけること。テーマは英語を含めた言語について、先行研究に基づいて、自分の論を展開できるようにし、また途中経過を発表できるようにすること。分からないところは、必ず質問すること。

## 予習・復習

論文の書き方について、毎回配布される資料などを下読みし、授業の後は復習を怠らないこと。自分で選んだ論文のテーマを扱った文献を読み進むこと。

## 評価方法

「論文として文章の組み立てを工夫しているか。気持ちを書かない。意見を書く。事実と意見を区別して書く。背景を知らない人が読むことを予想して書く。」以上のことができているか。また論文の構成が、序論、本論、結論、残された問題、参考文献などから成り、論文としての体裁を整えているかも評価する。

## テキスト

- 教科書名：印刷教材を使用するので教科書は使わないが、随時参考文献を紹介する。
- 著者名：
- 出版社名：
- 出版年 (ISBN)：

**授業概要**

映画・アニメーション・文学にみられる文化を分析することで卒業論文を制作する。学生の興味のある題材を選び出し、先行研究に関する参考文献を毎回読破して、論文作成への基礎知識を固め、また、論文の文体、要約の仕方、参考文献の探し方など、基本的な作業も再確認してゆく。その時代を表象するテキストを読み解くことで、現代文化を追求する卒業論文を目指したい。

**授業計画**

第 1 回	要約の仕方	第 16 回	資料講読	ホラー映画の文化史
第 2 回	先行研究のリサーチ方法	第 17 回	資料講読	美少女アニメ
第 3 回	発表資料の作成方法	第 18 回	資料講読	ディズニーアニメ
第 4 回	資料講読 アメリカ映画 20 世紀前半	第 19 回	資料講読	クトゥルフ神話
第 5 回	資料講読 アメリカ映画 20 世紀後半	第 20 回	資料講読	H・P・ラヴクラフト
第 6 回	資料講読 アメリカ映画 21 世紀	第 21 回	資料講読	『千と千尋の神隠し』
第 7 回	資料講読 アメリカ映画の特性	第 22 回	資料講読	宮崎駿
第 8 回	資料講読 日本映画 20 世紀前半	第 23 回	資料講読	新海誠
第 9 回	資料講読 日本映画 20 世紀後半	第 24 回	資料講読	細田守
第 10 回	資料講読 日本映画 21 世紀	第 25 回	資料講読	手塚治虫
第 11 回	資料講読 日本映画史の傾向	第 26 回	資料講読	ヒーローの文化史
第 12 回	資料講読 アニメーションの文化史	第 27 回	引用の仕方	
第 13 回	資料講読 『もののけ姫』	第 28 回	卒業論文の文体	
第 14 回	資料講読 ゲームの文化史	第 29 回	注釈、参考文献の作成の仕方	
第 15 回	資料講読 スピルバーグの映画	第 30 回	卒業論文の総括	
		第 31 回	卒論の発表会	

**到達目標**

参考文献を読みこなしたうえで、自分のテーマを巧みにプレゼンテーションすることができるようになり、社会や文化の深層心理を解釈する完成度の高い卒業論文を作成することを目標にする。

**履修上の注意**

楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。  
資料を多く配布するのでファイルを持参のこと。

**予習・復習**

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

**評価方法**

卒業論文（70%）、授業内発表（30%）などの総合評価。

**テキスト**

毎回授業で資料を配布、また参考文献については適宜指定する。

## 授業概要

卒業論文作成の実地指導を行なう。卒業論文は、大学4年間の総決算であると同時に、言わば小学校以来の学校生活（知的探求）の締めくくりでもある。できるだけ良いものを仕上げてもらいたいのはもちろんだが、それ以上に、卒業論文という子どもを産む「産みの苦しみ」を楽しんでほしい。この1年間が、甘辛ともに、よい思い出となることを念じている。

## 授業計画

今年度の履修者は10名なので、これを仮に学生①から学生⑩とする。

第1回	ガイダンス（授業の進め方について）	第16回	学生①, ②の中間報告（3回目）
第2回	中間報告の作法（講義）	第17回	学生③, ④の中間報告（3回目）
第3回	レジュメの作法（講義）	第18回	学生⑤, ⑥の中間報告（3回目）
第4回	質疑応答の作法（講義）	第19回	学生⑦, ⑧の中間報告（3回目）
第5回	テーマ・題目の最終確認	第20回	学生⑨, ⑩の中間報告（3回目）
第6回	学生①, ②の中間報告（1回目）	第21回	学生①～⑤, 執筆進行状況の確認
第7回	学生③, ④の中間報告（1回目）	第22回	学生⑥～⑩, 執筆進行状況の確認
第8回	学生⑤, ⑥の中間報告（1回目）	第23回	仕上げの作法（講義）
第9回	学生⑦, ⑧の中間報告（1回目）	第24回	学生①, ②の中間報告（4回目）
第10回	学生⑨, ⑩の中間報告（1回目）	第25回	学生③, ④の中間報告（4回目）
第11回	学生①, ②の中間報告（2回目）	第26回	学生⑤, ⑥の中間報告（4回目）
第12回	学生③, ④の中間報告（2回目）	第27回	学生⑦, ⑧の中間報告（4回目）
第13回	学生⑤, ⑥の中間報告（2回目）	第28回	学生⑨, ⑩の中間報告（4回目）
第14回	学生⑦, ⑧の中間報告（2回目）	第29回	全員について最終チェック
第15回	学生⑨, ⑩の中間報告（2回目）	第30回	卒業論文の提出

## 到達目標

言うまでもなく、卒業論文を期限までに提出すること、これに尽きる。

## 履修上の注意

- \*遅刻や欠席は、上の表の進行に直接影響するから、厳に慎むこと。とくに、報告担当に当たっていないがらの無断欠席は論外、一発「不可」と覚悟すべし。
- \*担当の順番を変更したい場合は、各自の責任で代行者を立てて、前週のゼミの時間にアナウンスすること。なお、順番を入れ替えても「年度内に4回の報告」を守らなければならない。
- \*活発に質疑応答が行なわれることを期待して、私語と同様、だんまりも禁ずる。何かしら発言するように。

## 予習・復習

- 【予習】報告担当者は、報告の準備をする。レジュメは、必須とはしないが、なるべく用意する。報告担当以外の方は、質問や批判ができるよう、当日のテーマに即して適宜予習しておく。
- 【復習】報告担当者は、質疑の内容や教員からのコメントについて、整理・検討する。報告担当以外の方は、テーマは違ってても参考になる点がないか、よく反芻（はんすう）してみる。

## 評価方法

むろん卒業論文を主とし、そのほか、各期末（定期試験期間中）に筆記試験を行なう。また、演習科目であるから、受講態度も評価の対象とするが、これについては初回時に諸君と合意したうえで得点（減点）化する。  
配点比率：卒業論文80%、春期末試験5%、秋期末試験5%、受講態度10%

## テキスト

使用しない。  
「専門演習」で教科書として用いた『歴史学で卒業論文を書くために』を適宜参照することが有効。参考文献などは、その都度、個別に提示・推奨する。

**授業概要**

この授業は、卒業論文又は卒業研究を完成させることを目的とする。受講者は専門演習参加者であることを前提に、三年次に決めたテーマを具体的なかたちにすべく、授業を軸にしつつ各人で作業に取り組んでもらう。一年間のスケジュールは、授業外の時間も含めて「相談→実習→経過報告」のサイクルを意識しながら進行する予定である。したがって、毎週必ず全員参加というわけではない（詳しいスケジュールは初回ガイダンスにて決める）が、経過報告会には必ず参加して、現状を報告してもらう。

卒業論文（研究）は、これまでの大学生活の総決算である。授業外の時間も使って、自分の考えをかたちにするために邁進してほしい。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第 2 回	春休み課題の確認	第 17 回	経過報告会④
第 3 回	構想の相談①	第 18 回	経過報告会⑤
第 4 回	構想の相談②	第 19 回	図書館実習②
第 5 回	構想の相談③	第 20 回	実施状況の相談④
第 6 回	経過報告会①	第 21 回	実施状況の相談⑤
第 7 回	図書館実習①	第 22 回	実施状況の相談⑥
第 8 回	実施状況の相談①	第 23 回	経過報告会⑥
第 9 回	実施状況の相談②	第 24 回	経過報告会⑦
第 10 回	実施状況の相談③	第 25 回	完成にむけての相談①
第 11 回	経過報告会②	第 26 回	完成にむけての相談②
第 12 回	経過報告会③	第 27 回	完成にむけての相談③
第 13 回	夏休みにむけての相談①	第 28 回	最終確認
第 14 回	夏休みにむけての相談②	第 29 回	予備日
第 15 回	夏休みにむけての相談③	第 30 回	卒業論文又は卒業研究提出日

**到達目標**

卒業論文又は卒業研究を完成させる。

**履修上の注意**

卒業論文（研究）の完成は勿論のこと、その他卒業に必要な単位（数）を取得していなければ、卒業できない。単位数に不安のある学生は、卒業論文（研究）製作と同時に必要な単位の取得も心がけてほしい。

**予習・復習**

授業の目的上、時間外作業が中心となる。定期的に行う経過報告会で、自分の進捗を発表できるように準備を進めること。

**評価方法**

卒業論文（研究）の提出、およびその内容によって評価する。一年を通じての進捗状況も評価対象とする。

**テキスト**

なし。各自の卒業論文（研究）に必要な書籍等については、相談時に紹介する。各人で購入ないし図書館に購入希望を申し込むことを推奨する。

**授業概要**

3年間で学んだことを踏まえ、各自研究テーマを決めて研究方法を検討し、卒業論文を完成させることを目的とする。研究テーマに沿って必要な資料やデータを収集し、分析、考察していく力を身に付ける。研究に取り組む過程で、自分の研究について説明したり、他者の研究に対して意見を述べたりすることを通じて、研究課題への理解を深め、最終的に論文をまとめる。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	研究論文の体裁1（問題と目的）	第17回	進捗の報告と検討①
第3回	研究論文の体裁2（方法部分の記載）	第18回	進捗の報告と検討②
第4回	図表の書き方	第19回	進捗の報告と検討③
第5回	研究論文の結果の書き方	第20回	データ分析の方法について学ぶ
第6回	考察部分の記載内容について学ぶ	第21回	データ分析①
第7回	引用文献の記載方法について学ぶ	第22回	データ分析②
第8回	受講生の研究テーマ発表①	第23回	分析結果を図表にまとめる
第9回	受講生の研究テーマ発表②	第24回	論文執筆①
第10回	受講生の研究テーマ発表③	第25回	論文執筆②
第11回	データ収集方法の検討①	第26回	論文執筆③
第12回	データ収集方法の検討②	第27回	論文の最終報告①
第13回	データ収集方法の検討③	第28回	論文の最終報告②
第14回	春期の振り返り	第29回	論文の最終報告③
第15回	夏休み中の作業内容の確定	第30回	要旨の作成・まとめ

**到達目標**

- ・興味・関心のあるテーマの文献、資料を収集し、内容を理解することができる。
- ・心理学的な視点や方法論を用いて、妥当性のある研究を実施し、論文としてまとめることができる。

**履修上の注意**

- ・心理学または教育心理学に関心のある学生を対象とする。
- ・積極的、主体的に研究を遂行する姿勢を持つこと。

**予習・復習**

- ・授業時間外で研究の遂行や発表の準備を行ってもらうことがある。
- ・他の受講生の発表に対しても積極的に意見を述べること。

**評価方法**

卒業論文およびそれまでの受講態度を評価対象とする。

**テキスト**

- ・必要に応じて資料を配布する。
- ・参考書など必要なものは、講義の中で適宜指示する。

**授業概要**

音楽、ゲーム、テレビ番組、映画、スポーツなど、メディア文化を主な対象とし、各自テーマを定めて調査・研究を進め、卒業論文を完成させる。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	進捗の報告
第 2 回	対象/主題/テーマ/タイトルの問題	第 17 回	参考文献リストの作成
第 3 回	文献の種類と探し方	第 18 回	中間発表会 1
第 4 回	主題と概要の相互報告	第 19 回	中間発表会 2
第 5 回	構想の作成 1	第 20 回	中間発表会 3
第 6 回	構想の作成 2	第 21 回	メディア文化に関する講義 2
第 7 回	構想の相互添削	第 22 回	草稿の報告と指導 1
第 8 回	論文の体裁について	第 23 回	草稿の報告と指導 2
第 9 回	先行研究の紹介 1	第 24 回	草稿の報告と指導 3
第 10 回	先行研究の紹介 2	第 25 回	草稿の報告と指導 4
第 11 回	先行研究の紹介 3	第 26 回	草稿の報告と指導 5
第 12 回	メディア文化に関する講義 1	第 27 回	草稿の報告と指導 6
第 13 回	研究計画の作成 1	第 28 回	草稿の報告と指導 7
第 14 回	研究計画の作成 2	第 29 回	卒業論文最終確認 1
第 15 回	夏季の作業について	第 30 回	卒業論文最終確認 2/まとめ

**到達目標**

卒業論文の完成。  
論文執筆に必要な知識、技術を身につけ、各自のテーマに沿って調査・研究を進める力を養う。  
能動的に文章を読み、書き、考え、広い教養を身につける。

**履修上の注意**

無断欠席はしないこと。事情により欠席する場合は自分から連絡すること。  
関心が異なっていたとしても、他のゼミ生の調査・研究から学べることは多いので、発表や構想をよく聞き、積極的に意見交換をすること。  
プリントを毎回配るとは限らない。ノートを持参し、メモをとること。

**予習・復習**

卒業論文の作成のためには授業外の時間にも積極的に調査・研究を進める必要がある。  
文献は図書館、書店、インターネット等を活用し、自主的に収集・整理すること。  
ゼミの内容を踏まえ、自らの構想や執筆内容を再点検すること。

**評価方法**

卒業論文、ゼミ活動への参加の積極性、調査・研究への取り組み方から総合的に判断する。

**テキスト**

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。  
個々のテーマに合わせて参考文献を紹介する場合がある。

## 授業概要

本演習では卒業論文の書き方を学ぶ。既に3年次までに特定の言語資料（新聞や漫画）を見定め、分析し、調査データにまとめてあるので、それを用いて卒業論文を執筆するのに必要な知識を学び、実際に執筆することを目指す。授業の形態としては、授業の進行に従って卒業論文を書き進めながら、随時発表し、問題点を修正していくというものになる。

言語資料は古代から現代まで様々あるが、本演習では現代の新聞（文章語）および漫画（口頭語など）における書かれた言葉を資料とする。これらは国会図書館にも収められており、学術的に利用できる。

## 授業計画

第1回	春期の進め方の説明と資料の相談	第16回	秋期の進め方の説明と資料の相談
第2回	文体の概説①	第17回	文体の概説③
第3回	文体の概説②	第18回	文体の概説④
第4回	卒業論文の発表①	第19回	卒業論文の発表⑬
第5回	卒業論文の発表②	第20回	卒業論文の発表⑭
第6回	卒業論文の発表③	第21回	卒業論文の発表⑮
第7回	卒業論文の発表④	第22回	卒業論文の発表⑯
第8回	卒業論文の発表⑤	第23回	卒業論文の発表⑰
第9回	卒業論文の発表⑥	第24回	卒業論文の発表⑱
第10回	卒業論文の発表⑦	第25回	卒業論文の発表⑲
第11回	卒業論文の発表⑧	第26回	卒業論文の発表⑳
第12回	卒業論文の発表⑨	第27回	卒業論文の発表㉑
第13回	卒業論文の発表⑩	第28回	卒業論文の発表㉒
第14回	卒業論文の発表⑪	第29回	卒業論文の発表㉓
第15回	卒業論文の発表⑫	第30回	卒業論文の発表㉔

## 到達目標

書かれた言語資料を集めて分析することができ、自分自身で日本語学の分野の論文発表ができるようになること。特定の言語資料（新聞や漫画）を見定め、文章語と口頭語を対照しながら、その言語資料の文体の特性を複数見つけ出して論じることができるようになること。

## 履修上の注意

「日本語の文法、日本語学（概論）、日本語学（各論）、日本語コミュニケーション、言語学、社会言語学」などの日本語学・言語学系の科目のうち少なくとも一部を既に履修しているか、並行して履修してもらいたい。特に「日本語の文法」は必須なので、未修なら並行履修してほしい。また、エクセルを頻繁に使うので、苦手な人は使いながら慣れて行く必要がある。

## 予習・復習

授業は、各自が発表準備を間に合わせることを前提としており、最初の発表者は短い準備期間で仕上げることになる。発表の順番などは原則としてクジで決める。受講者の人数次第では講義の回数を増やすか、あるいは発表を複数回担当することもありうる。各自発表に間に合うように努力されたい。

## 評価方法

発表・レポートおよび定期試験（80パーセント）、その他受講態度等（20パーセント）で評価する。

## テキスト

・教科書は使用しない。資料については以下のとおり。新聞や漫画は講師が資料を配付することも、受講者が用意することもある。新聞は「朝日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞」などの記事を利用する。漫画は特定の作品のセリフなどを資料とするが、卒業論文では1巻分程度（専門演習で分析済みのもの）を扱う。受講者間で作品や作者が異なるようにしたい。